Ｎｏ.１

令和２年１０月１９日（月）

第5回スピーチ集会

沃野（よくや）

竹富町立
船浦中学校
学校便り
第23号

発行責任者
校長
仲田欣五

「楽しいと言えること」
（２年　永井一ノ輔）

「皆さんは悔しい思いをしたことがありますか？」誰もが悔しい思いをしたことがァルト思います。、まだ悔しい思いをしたことがない人も、これからたくさんの悔しい思いをすると思います。

僕は少し前にとても悔しい思いをしました。それは、駅伝大会に向けての最終選考でＡチームに入れずにＢチームになったこと、本番に自己ベストのタイムを出せなかったことです。しかし、何よりも走った後、親に「何で自己ベストが出せなかったの？」と言われたときに「前に人がいなかったから･･･。」と言い訳をしてしまったことが一番悔しかったです。走り終わった後も自己ベストを出せず納得できる走りができなかったので「楽しい」という気持ちにはなりませんでした。

そんな中で、英星先輩の一言がとても印象に残りました。それは、英星先輩が走り終わった後に「楽しかった」と言っていたことです。それを聞いた僕は、「すごい」「かっこいい」を思いました。「楽しい」という気持ちが出たのは、僕が思うに英星先輩は本番で二人の選手を抜いたことはもちろん、一番は練習の成果を本番で発揮できたからじゃないかと思います。

今年の駅伝練習は、１９日間しかない中で、自分を追い込んだり、スピードをつけたり、長い距離を走ったりとてもきつかったけど、この駅伝練習を通して体力や忍耐力がつきました。しかし、英星先輩を見て自分にはまだまだ何か足りない部分があるのではないかと思いました。来年に向けて駅伝だけでなく、日頃の部活動でも走る練習を取り入れて頑張っていきたいです。バスケの大会では、人数が少なく、ほぼフルでなければなりません。きついからと言って休んでしまったらチームに迷惑がかかってしまい勝てなくなります。チーム全員で協力しないと勝てないのは駅伝と似ていると思いました。

まずは、自分にできそうなことから取り組み、きつい練習を乗り越えて来年には悔いのない走りをしたいです。

Ａチームに入れなかった悔しさ、親に言い訳をしてしまった悔しさをバネにして自分に負けないという気持ちを持って何にでも頑張っていきたいです。

そして来年はＡチームに入り、チーム一丸となって西表校に勝ち、裕太先生が言っていた竹富町１位を勝ち取りたいです。そして最後に心から「楽しかった」と言いたいです。

「百人一首について」
（１年　山之内陽咲）

皆さんは趣味はありますか？もちろん人それぞれ自分に合った趣味があると思います。もちろん、私にも趣味はあります。それは、百人一首です。皆さん一人一人百人一首は楽しそうな遊びだと思いますか？多分、半分以上の人が楽しくなさそうと思うはずです。私もともとは百人一首が楽しいそう、やりたいと思いませんでした。でも、そんな私が何故百人一首が趣味になったのか、それは私が小４の頃、担任が久美先生のとき、何かの授業の時百人一首をすることになりました。その時はやる気も出なかったので「分を聞いてただ取ればいいんだ」そんなふうな気持ちでした。でも、いざやってみると、とても楽しくて私は無我夢中で札を取っていました。その時から私は百人一首が趣味になり、家族ともやるようになりました。そこで皆さんに百人一首に込められている意味をいくつか知ってほしいと思うのでいくつか紹介したいと思います。まず一つ目は、「めぐりあひて見しやそれとも、わかぬ間に雲がくれしに、夜半の月かな」これは源氏物語の作者紫式部が書いた短歌です。この短歌の意味は、久しぶりにめぐり会ってその人かどうか見分けがつかないうちに雲間に隠れてしまった夜半の月のようにあの人は慌ただしく姿を隠してしまったのですね、という意味だそうです。そして２つ目は「夜をこめて鳥のそら音ははかるともよに逢坂の関はゆるさじ」これは、「枕草子」を書いた紫式部のライバルである清少納言が書いた短歌です。この短歌の意味は夜の明けないうちに鶏の鳴きまねをしてだまそうとしても入国審査ならともかく、逢坂の関はだませません。私は決して逢いませんよ、などと恋に関する短歌もあります。

他には農民の辛苦を思いやる偽政者の歌や自分の故郷への思いを書いた歌、友との別れを惜しむ歌など、たくさんの短歌が百歌つづられていて、その詠まれた短歌を早取りする遊びで、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活動した貴族、藤原定家が選んだものです。

百人一首はおもしろくなさそうな遊びだけど、意味を知りながら遊ぶと興味が湧いてくると思います。皆さんも百人一首の意味を知り私と勝負してみませんか？

＜振り返り＞（山之内陽咲）
話の内容があまりおもしろくなかったので、次は面白くなるようにしたいと思います。

＜振り返り＞（永井一ノ輔）
原稿に頼ってしまったので、次は原稿を見ないで発表できるようにしたいです。